

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵税共五十錢)



編輯長 森田上野 印刷所 森田上野
發行所 森田上野 印刷所 森田上野
印刷部 森田上野 印刷所 森田上野

ネオ・ヒロイズム

我等は茲に新會員八十名を加へて千三百人の大世帯となつたのである。

お互に一致團結して我國網業のため邁進しなければならぬ。

世はスピードアップの時代であり誰もが早く彼岸に達せんことを希望してゐるけれども高速度にて邁進するには分子であるお互の結合が確かでなければならぬ。敢て鋼鐵艦たる事を望むことはない、反つて我等は堅固に組んだ筏であつて欲しい。我時報も筏を組む一本のロープであらう、その代り乗組員は鋼鐵艦の如く安快を望むことは出来ない、誰も皆足下を水に浸し烈日の下でその裸体を曝さねばならぬ。

この多人數である大團結を維持し進展するには會員全体が一人一人會を代表し得る人でなければならぬ會のためには一人の偉い人が出るよ

丁抹視察所感

松村季美

スカンデナヴィア半島の旅行も三十

日に終りを告げ丁抹に参り本日にて

りは全員が會のために會員としての資格ある人物であつて欲しい。昔より英雄を崇拜し英雄を求むる人心に變りはない、然し我等はこの昔の病的なヒロイズムに幻滅を感じてゐるものである。カーライルのやうに英雄を譽めすぎると何だか民衆があまりに無自覺のやうに思はれる、さりとてトルストイの「戦争と平和」にあるやうに「人民の作り上げた人形」だとも思はないがかかる英雄をのみ偉とする時代は既に過ぎ去つたのである、もつと團体的生活の本体を知つて一人一人が我等のいふネオ・ヒロイズムを持つたものでなければならぬ。それは外面を利する力よりも内的に自己を統御しひいてその周圍を統御するものでなくてはならぬ。我等はお互に我會の恩恵を背負つて立ち、創造に仕事に誰もが會を代表するものであつて欲しい。

四日を経ました。今回は今少しくバクやチイズ製造輸出の組合の活動を見併せて農民の内大農の經營振を調査に巡りました。本日参つた農家は附近に有名な大經營の農家にて耕地、六〇〇エーカー。乳牛三三〇〇、耕馬二八、鷄鳥若干、作男一五と云ふ大經營です、百エーカー位有する農家は澤山にありまゝ。生産消費の組合の活動の圓滑なる理想的です。官民一致の實の擧つて居る事規範等一度定めれば之を破るが如きものなき事、要するに信用問題に歸着します。量より質に主力を注ぐ丁抹の生産業こそ世界に冠たる理由であります。自重と自任が一般國民性に迄化して居ます。茲迄來なくては生産の事業は美華を開き芳果を結ぶべき事は不可能と思ひます。農業労働には血氣の青年が従事し、年長者は他の仕事(停車場の驛長、助役、其他運輸事業に従事する人々)は五六十の年長者が多く血氣の青年壯年者は殆ど見出す事が出来ません。此の點が大いに日本等と趣を異にして居ます、學校は月給取養成所の如くなり易い我國の前途は危ふき事果卵の如きものがありませう。

國民高等學校や農學校(小學を終へ四、五年労働に従事して後此學校にて六、九ヶ月眞面目の教育を受ける後)を卒へて郷里に歸りたる青年は全く中心となりて労働に従事し生産をばけみまゝ、此點であります日本では成程多く六ヶ敷事を教へれば教育の事業が成功した様に考へ生徒も夫を得意として生半着の片輪的青年が出来上る様に仕向けてありますから教育の効果が擧がらぬと思

ひます、土を相手の仕事は土を愛する事を教へれば夫で教育の効果は充分あると思ひます。高等の教育を受ける人間は夫だけの頭腦と資力と境遇とを有する人間だけに限らして置く可きものと思ひます。農村の未來ある青年をして土を愛する事延ては國を愛する事を根強く教化するには如何にするかと言ふ事が問題として残ります。徒らに國情の異なる丁抹を模倣することなく丁抹の教育の眞髓をとらへ來り是に地方事情、事情の異なる特色を織込んだ教育方法を考案する事こそ急務中の急務と考へます。是には少しく「時日」を要するでせうが永遠の策は是を以て他に求む可からずと考へます。御賢察を請うてやまざる次第であります。

形式に非ずして精神であります、國民高等學校等丁抹を眞似て建設しても夫は恐らく形式の模倣に終る事でありませう。私は是を採らずして只今ある營業試驗場の講習部や冬期間の青年への教育等の現状に改良を加へたならば面白き結果が起つて來はしまいか。産業組合の仕事精神其他之に關する智識等専門家をに入れて是等の青年に教育し實地を視察せしめ且或期間特殊の組合に屬せしめて内情を見學せしむる等の事を行はしめば其効果たるやけだし尠からざるべしと信じます。

丁抹の農村の青年が如何に純眞にして國を愛し郷土を愛し土を愛するかを丁抹が如何にして今日の平和郷を生み出せるかを丁抹に關し學校教育を受けたる幾多の教育者(夫には青年を澤山丁抹に送り一ヶ年國民

學校に入れて經驗を経さす必要がありまゝ。試驗場にて有爲の青年をかくの如く養成しては如何なものか、一ヶ月六十圓あれば澤山らしいです、九ヶ月五百四十圓往復旅費三等にて三〇〇圓位でせう。一人に千圓かければ充分です。不景氣の時で駄目だせうが何か良策は無きものでせうか)によつて各地に講習を開いて青年によく精神的に教へ込み農村を離るゝ事なく農村の開発發展に努力するの喜悅を湧き起さしめなくてはなりません。

かくして漸く行き悩まんとせる農村の困苦を救済するから然らずんば大偉人の現出を待つか(例へば丁抹に於けるグルンドウツヒの如き)二者一を選ぶより外無きものと思ひます。

伊太利に於けるムツソリーノの如きを望んでも夫は恐らく日本にては六ヶ敷事ではないかと思はれます。丁抹に於ける農業教育組合運動を範とする事は日本の現在としては割合に到達に容易でないかと思はれます。要は如何にして之を消化吸収するかと言ふ事でありまして手段方法の問題に歸着する事と思ひます。

幾多の人々が丁抹を視察し丁抹の教育を讚美して居るを知つて居ります。然し如何に夫に日本の現状を投射して浮び出する幻像を捕獲するかは別の問題であります。

總理大臣が危險に偶ふ日本の現状を思ふ時ロシアの赤化西に在り、アメリカニズム東に在り其間に介在せる日本は如何に動くかを思ふ時徒らなる消極手段は最早役に立たぬを感じます具体的、積極的手段を樹て、進むに非んば日本は救済に途無きを

感じます。學校、農會、當業者の團體等に於て活動方法の豫算編成をする際其の事業の一部として地方より幾多の青年（中等學校卒業程度）を丁抹若しくはスカンデナビア半島に送り農村生活を行はしめ且國民高等學校か農學校の生活に浸らしめ（五ヶ月―九ヶ月）丁抹を消化吸収して歸らしめ是が核となり細胞的運動を起さしむる事も一法策では無いと思ひます、丁抹農村半ヶ月の不完全なる觀察を以て寢言の様な事を云ふかと御笑ひになるかも知れませんが私の貧弱なる頭を只今充たして居る感想は是を以て他にありません。

丁抹の産業組合の組織内容を採つて以て日本の農蠶業救済の方面の投資に致すには確に組合製糸を中心とせる養蠶業に向つてより外ありません。

事物の性質上牛酪製造組合が組合製糸に類似點を多分に含有して居ります。

農業の機械力利用、場長殿の所謂工業化も丁抹に於ては遺憾無く實現せられて居ります。是は確に此後日本に於ても參考とすべきものと思ひます、勞働と言ふ文字通りに豚の如く勞役する（能率等は餘り考へ入れず）事のみが勤勉と言ふ事に解釋し易き其甚誤つた頭を改造して能率本位即機械力利用と云ふ方面に今少しく進歩を見出さねばなりません。人間は決して牛や馬や豚では無い飛行機を案出し潛行艇を考案せる本體なる事を心づかねばなりません。組合の單位は大休村又は部落單位ですが場合によつては之等の集合、又は全然別個の組織（例へば種子組合の如き特殊のものは全國的に一組合となつて居るものもあります）もある様です、此點著書によりなほ直接不明の組合もありますから各別に就いては調査完成の後御報告申します。纏めかけて見ました色がとあれも調べたい是も調べたいと思ふ事が澤山ありますから餘り慾があり過ぎるかと思ひますが又と無き機會ですから近々今一回視察した個所の内模範的の場所就いて詳細なる調査を致す可く出張の豫定です。本等も色々手に入れて見ましたがどうも皮相の記載多くある様感じてなりません。

夫から各組合は各々別個となり是等が互に連絡を保つて居ります。政府も夫にはあつたつて力ある次第であります。

是等の點も組合製糸に似通つて居ります。要は

- 一、農業の機械化
- 二、農業の科學的經營
- 三、品質本位
- 四、社會的民衆氣分の徹底
- 五、義務の遂行
- 六、共同精神（愛郷愛國）の普及

とかう云つた有形無形の連鎖によつて強固なる組合團結を實現して居る事は疑ふ餘地がありません。そして夫等の基礎は學校教育即農學校（内地の乙種程度）及國民高等學校の教育によつて側面的に作りあげ幹部即主腦の基礎は一層高き高等農學校（甲種農學校）の如き教育によつて作りあげて居ると認めて居ります。種子組合の活動の如き其の内容は全く之を蠶種改良組合（組合にて行ふがよいと思ひます）に採り入れたなら効果極めて多きものありと思考します。是等の事は筆では盡せませんから拜眉の上申上げますが只今私の頭は

餘りに色々空想的かとも思はれる迄に飛んだ考に迄走つて居ります。何故ならば日本の農民の現状と丁抹の農民の現状とが餘りに距離が大なるに今更ながら驚くと共に如斯好模範の國があり是を紹介して呉れる人も澤山ありますが何れの點か日本に於て國家の上より又農蠶業組織の上より之を消化吸収すべきものなりやと云ふ事を強く主張する人の殆ど全く無きに一驚せざるを得ません。

――

當地の高等學校は他と異りミツンヨンによりて經營せらるゝ點に於て知らる。開校の當初は本學校のみならず更に擴張せられ工手學校、中學校師範學校及農學校を之に加へるゝに至りハスレフの町は學校町となりし感有り。國民學校の現校長エツチトリイ氏は不肖が當國內に於て訪問せる多くの人々の間に在りて最も強き印象を受けた紳士なり。其態度に於て其説明の明確さに於て其懇切なる表示に於て獨特の人格を認め得たり、如斯き校長を以て經營教育せらるゝ本校の特色は想像するに難からず、勉學の期間は夏期（女子）五―七月迄、冬期（男子）十一月―三月迄とす、其の學科の内容は特に聖書に關し宗教の教授の存する點に並に歴史教授に重きを置く點なるべし猶手工を教授し製本其他機、本立等の製造實習を課すと雖も他の實習は課せず學生は一〇〇名として全部寄宿し校長及教師の大部は校内に宿泊す、前校長ビ、グビッドセン氏は老齡の故を以て職を退きしと雖も學校の境内に居住し一週に僅小時の授業を分擔するの外同氏の家族全部は舊時と同じく毎日晝食は職員及學生と共に食卓を等ふす師弟の美しき情誼水晶の如し。現校長トリイ氏は苦學力行の士にして當初一農民なりしが志所有り夜學の工手學校に通ふ傍語學を勉強し後軍隊に入り出でてコペンハーゲンの大學に入り之を卒業して當校に職を奉じたるの人なり、最高の學府に學びたるの人にして我日本國とせば高等小學校にも比す可き私立學校の一教師として一生を捧ぐるの點こそ尊くして價値あるものに非るか、同校には庶務會計若くは小使給仕等なし（丁抹の多くの學校皆然り）従つて最も勤勞するは校長にして是等一切の仕事は自ら明快に辨ぜざる可からず校長夫人が賢明なる補佐役となる場合多し、然も自ら毎日授業を持ち傳導に出で學生の父兄と應接通信し來客と應對し自ら修養す日も亦足らざる思ふるべし、其間に在りて不肖の難問を詳細懇切に説明せられ些の多忙の風貌を示さず、勤勞を寧ろ快樂と迄思考せらるゝが如く、同氏語を強ふして曰く「丁抹人は互に他を信するが故に

生と共に食卓を等ふす師弟の美しき情誼水晶の如し。現校長トリイ氏は苦學力行の士にして當初一農民なりしが志所有り夜學の工手學校に通ふ傍語學を勉強し後軍隊に入り出でてコペンハーゲンの大學に入り之を卒業して當校に職を奉じたるの人なり、最高の學府に學びたるの人にして我日本國とせば高等小學校にも比す可き私立學校の一教師として一生を捧ぐるの點こそ尊くして價値あるものに非るか、同校には庶務會計若くは小使給仕等なし（丁抹の多くの學校皆然り）従つて最も勤勞するは校長にして是等一切の仕事は自ら明快に辨ぜざる可からず校長夫人が賢明なる補佐役となる場合多し、然も自ら毎日授業を持ち傳導に出で學生の父兄と應接通信し來客と應對し自ら修養す日も亦足らざる思ふるべし、其間に在りて不肖の難問を詳細懇切に説明せられ些の多忙の風貌を示さず、勤勞を寧ろ快樂と迄思考せらるゝが如く、同氏語を強ふして曰く「丁抹人は互に他を信するが故に

疑はず、他を愛するが故に協力す、平等を欲するが故に協力す、産業組合の健全な發達の基礎は實に如斯き協力精神を涵養すべき國民學校其他之に類する學校教育に在り」と云なる哉、不肖が同校滞在は三日間の短時間なりしと雖も親しく學生と寢食を共にし彼等の日常生活に接し學生と教師との親密關係を目撃せるに及んで所謂教育なるものゝ精神の如何に國によりて差異あるかを臘氣ながら知り得たるの感を懷くに至れり。

以上は松村氏より長野縣蠶業試験場長水井氏にあてた手紙の抜抄である。

因に同氏は次の如き日程にて櫻の花の咲く頃には日本へ歸朝される筈である。

- 二月下旬、英國より米國に渡り紐育地方視察
- 三月上旬、カナダ地方視察
- 三月中旬、米國橫斷
- 三月下旬、カリフォルニア地方視察
- 四月二日、桑港發、郵船秩父丸
- 四月十七日、横濱着
- 四月十八日、長野歸着

コロキウム禮讚

山口定次郎

子供の頃のいろは歌留多に「霞のすいから天覗く」といふのがある。又「井の中の蛙大海を知らず」といふ諺がある。何れも微の生えた様な古くさい句ではあるが凡そ何事に限らず眼界を擴げよとの古人の教としてよく消化吸収すべき句ではある。世は既に云ふまでもなく分業の時代である。各自はその本分とする仕事に於て最善を盡せば足るのである。勞働者も、事務家も、學究の徒も均しく各々の専門の分野を開拓することを許され同時にそうすることが最も有利で能率的な時代である。然しながら動もすると分業は獨立と混同され勝であるが現代は單なる井蛙式的分業は既に時代遅れである。一つの仕事を完成せんが爲の分業であつて、一部分の分業それ自身は獨立しえざる不具者であることは勿論である。總合といふ頂點の下に底邊としての分業でなければ意義を失ふので

ある。

にもかゝらず例へば、従来の製糸家も蠶業家も又蠶種蠶造家も果して眞に蠶業を高い頂點を見つめて各自の分野を切り開いてゐたであらうか。製糸家の蠶種製造部、組合製糸特約組合又は特定組合などの出現は無言の中に現在の蠶業成行の裏面を語るものではあるまいか。何かそこに不合理が在つたのである。

扱私には月並な蠶業經營法を敢て説くを目的とするものではない。只我が母校内學究の士が、相互の研究發表、新知識紹介等の唯一の機關としてゐる談話會を御知らせしたいのである。同時にその設置を御勧めしたいのである。

一週間に一度一昔から金曜日をその日にあてゝゐる——時間外ではあるが殆ど學課の様に會員は之に出席してゐる。之はもう十年以前からやつてゐるが萬止むを得ざる場合の外は之を中止したことがない。研究論文の發表。他の人々の論文の紹介及之等に對する討論、講話、學會の土産物その他若しくは知識の新しいと思はれるもの、又は科學的研究上に有益なりと思はれるものは何等の制限もなしに此の組上に上げて料理し賞味することが出来るのである。又之に質問を放ち意見を述べること、出来、尙未完成の論文の如きは此處で洗練され化粧されて後社會に送り出さるのである。故に談話會員はより多き知識の所有者であり同時に相互扶助會員たりうる。

談話會の講師は無數にある。從つて材料も豊富である。蠶業の一般は勿論、生物、機械、工學、物理、化學、數學、天文氣象、時には思想問題も出る。その他諸所に開かれる研究會、講習會などの模様は勿論、海外の土産物も、時々聴かれる、幸

に我々は是等の殆ど凡ての學問に關して數多くの學者を有つてゐるので得る所の知識も又廣汎である。

蠶の神經を研究してゐるものゝ話だが、生絲の強伸力を研究するものに對して全く無關係で無用であるといふ。誰が斷定することが出来るであらうか。ホンの少し考へ直してみるとわかる。神經は筋肉を支配し筋肉は絹絲物質の吐出凝固の作用に關係し、凝固作用が絹絲の強伸力に關係し、いとは誰が言ひ得るか。

生物學者のAが彼の或研究に就て斯くあるべしと推定を試みた。然るに化學者のBは又別に斯くあるべしと推論し、物理學者のDも亦斯る見方もありと批評を下して討論が行はれる。即推論も主觀の範圍を脱して次第に客觀化されて来る。客觀には先入觀念を含まぬ。斯くて此の三角形の中に普遍妥當の事實が明瞭に眞理化されて来るのはあるまいか。此に至れば既に井蛙式研究ではない片貝者ではない。自分の専門の仕事とは何等の關係もない様に見える話

殆ど解らない。面白くない。結局聞かない。斯うして知らないで終ふことが如何に我々に多いか。之が普通。

矢張り解らない。だが解るまで聞かう。少しは解ることがある。之から非常に大きなヒントを得たとする。それで良い。兎に角そこを大きな差が生れて来るのである。

文獻集聚に困難を感じたり、科學的智識の刺戟に乏しい田舎の地方などでは斯様な研究會が何んなに役立つものであるかは之を實際に行つて見ねば解らない。

私達は此の種の會が既に各大學や研究所や専門學校等で盛に行はれ素晴らしい活動をしてゐることを見聞し

てゐる。

我々の談話會創立當時からの首相原田親雄先生が先年ドイツから歸朝されると直ぐ、先生が彼國その他で見聞調査されたコキウム、*Monochina*——研究會又は談話會なるものに就て御話しがあつたが茲では一般學究の士——學校と云はず研究所といはず——は勿論のこと、同時に顧問として一流の教授例へば彼のアインシュタインの如きが後進學徒の爲に彼の貴重なる時間を費して、

一寸も進歩しない私の商賣

關東紡績平塚工場 香山清和

總ての仕事は不適當なものが廢れ優良なものだけが残つてだん／＼進歩して行くものである。私の使われてゐる絹紡と云ふ仕事も矢張りそうであるに違ひない。處がそうでない幾つかの出来事によつて、この絹紡のどうする事も出来ない。例へば不良で捨てられた方法が又用ひられて來たり或は一方で長くすると他方で短く／＼短くすると云ふ様な全然反對な方法が同時に行はれたりして然もそれに各々理窟がついてゐるから可笑しい。

こんな事を見せつけられると私達には何が何んだか譯らなくなつて來る。絹紡と云ふ事業は果して進歩しつゝあるのだらうか、唯變化してゐるだけではないだらうか。走馬燈の墨繪の様に同じ軌道を追ひつ追はれつしてゐるのではないだらうか。よい物を作ると澤山作ると云ふ事は相反する。それでこんな風になるのだと云ふかも知れぬ。然しそれも結局一致すべきものであるに違ひない。

グリンウッドの延長機や製條機や練條機がフロンローラーパートに

研究論文の發表に對して有力なる意見を與へ又時に質疑に答へ討議を共にされるといふ。誠に科學に對するその眞摯なる態度を想ふ時我々は只崇敬の念禁ずる能はざる次第である。

廣い世を廣く見渡す爲に、廣い知識を廣く求むる爲に、コキウムの價値を高唱する。而して總合の頂點を見つめて夫々の分野をよりよく開拓し知らざるが故の狭く苦しい世を脱け出したいのである。

於てフリーテッドローラーとレザールの式であつたのをシュルンベルグの眞似をしてゴムローラーとフリーテッドローラーに替へた事は確かに進歩であり改良であつたに違ひない。然るに最近のシュルンベルグは昔のグリンウッドの式を採用し始めて來た。これがまづ譯らぬ一つである。

鐘紡とか大日本紡と云ふ様な大會社が能率が六〇%も増加すると云ふ理由で漸次ミニールを廢しリング精紡機に移りつゝある時リングで紡出すべき小町糸をミニールで作りよい物が出來たと有頂天になる會社もある。然し英國などの様にミニールに移りつゝある處もある。又多くの工場は瓦斯や精紡の木管を大きくしたリリングの徑を増加し或はスピンドルリ

フトをにしたりして管揚回數を少くし能率を増加しようとしてゐる。他の多くの工場はリングの徑を少ししたりフトを大にして切斷を少くし能率を増加しようとしてゐる。いつたひとつが能率をよくするのであらうか。

絹紡用の精紡機は從來燃が均一になると云ふ理窟でスネルワイヤーをリングレベルと一處に上下する様になつてゐたのであるが最近のものはフロンローラーとラベットとの角度の變化を防ぐと云ふ兎に角證明をつけてスネルワイヤーを固定式のものにしてしまつた。すると綿紡ではさ大發見をした様にラベットを上下させて喜んでゐる。

機械のスビードアップが互に競争されるにつれ重針は單針となりフロンローラー徑は増加して來た。此の時に當つて徑が著しく少さくて重針を表面板にしてゐるシュルンベルグ式を新規購入をしたと云ふ頭のよい偉い會社もある。之も聞いて見たら胸に落ちる一通の理由があるだらう。

かうゆう風に數へあげて來れば幾らでもあるだらうが、何れも進歩か改良の積りでやつた事は確かである處が目的はさうでも事實はさうなつてゐるだらうか。色々いぢり盡してしまつた最後に最初の方法の方がよかつたと氣が付く様な馬鹿げた事は無いだらうか。私にはとても譯らないし、しかし現在の歩みがどんなに遅くてもそれが進歩であつて呉れればよいと思つてゐる。(終)

九州帝國大學農學部 入學試験概況

柏倉豊吉

九州帝國大學農學部には農學科、農藝化學科及林學科の三科あり、今

科別	定員	第一次	第二次	第三次
農學科	四〇	三八	二三	三八
農藝科	四〇	一六	一一	一四
林學科	一五	四	九	四

本年は三月廿二日、廿三日の二日間入學試験（學力檢定試驗）を行いました、我が同窓生の中曾根長男君は農藝化學科へパスされました。左に參考のため試験問題を掲げませう。

Western costume is totally unsuited to a Japanese interior; and would render the national squatting, or kneeling, posture extremely painful or difficult for the wearer. The adoption of western dress would thus

A-2. The results of scientific research Control the wealth of nations and the beliefs of their peoples. For it is not only in

B-1. The sea is never at rest

sion, and it has therefore been the ideal policy of every wise and prudent people to encourage it to the utmost.

B-3. In all ages the growth of plants has interested thoughtful men. The mystery of the change of an apparently lifeless seed to a vigorous growing plant never loses its freshness, and constitutes no small part of the charm of gardening.

A—三、實際我々の知識と稱するものは薄暗い提燈の様なもので、唯足元の廻りを僅かだけ照し、十怪我なしに前へ歩くことの出来に足りるだけのものである。其證據には如何なる問題でも少しく生まで尋ねると何時も必ず解らずで仕舞ひとなる。(丘淺次郎)。

B—四、汽車で旅行するよりも飛行機で旅行する方が安全かも知れない。

B—五、活動寫眞は娯樂のみならず科學の研究にも用ひられる。

(二) 單一絃運動をなせる質點の變位及速度を振幅、週期、位相等を用ゐて式にて示せ。

(二) 溫度百度Cの沸騰水と溫度零度Cとの等量を混ぜしに溫度十度Dとなりしといふ。氷の融解熱を問ふ。

(三) 光の廻折現象を説明せよ。

(四) 比抵抗 3.42×10^{-6} (オーム・センチメートル) 長さ一米、直径二耗なる針金に一、五アンペアの電流を通ずるとき針金の兩端の電位差如何。

(二) 植物の開花から結實までの現象を説明せよ。(五〇點)

(三) 次の事項につき知るところを記せ。(五〇點)

- a. 醋肉 (Vessy, here)
- b. 中心柱 (central cylinder, Zentralzylinder)
- c. 膨脹 (turgor, Turgor)
- d. 木化現象 (lignifikation, Verholzung)

e. 植物帶 (zones of vegetation,
Zonen von Vegetation)
以上 二時間
(質問を禁ず)

(1) 性染色體(Sex chromosome, Gteschlechtchromosom)に就て述べて

(一) 甲殻類 (Crustacea) 蛛形類
(Arachnida) 及び昆虫類 (Insecta) の形態を比較して述べよ
(二) マラリア (Malaria) 熱病に關する動物學的事實を述べよ
(四) 次の動物につきその分類上の位置(位、綱)を記せ
a. Ascaris b. Canis
c. Drosophila d. Gammarus

(一) 亞硫酸 (Sulphurous acid.) 硫
酸 (Sulphuric acid.) チオ硫酸
(Thiosulphuric acid.) 正磷酸
(Orthophosphoric acid.) メタ
酸 (Metaphosphoric acid.) の各

種 *Natrum* 鹽を分子式にて示せば第一、第二、第三アルコールをあげて説明せよ。

(三) 次の語を説明せよ

- (a) 分散質 (Dispersoid) 及び膠質 (Colloid)
- (b) 互變異性体 (Tautomer)
- (c) 縮合 (Condensation) 及び重合 (Polymerization)

(四) 次の物質の分子式を問ふ。
(a) α -ナフトール (α -Naphthol)

- (b) 尿酸 (Uric acid)
- (c) サリチル酸 (Salicylic acid)
- (d) 果糖 (Fructose)
- (e) アミノ 醋酸 (Glycocoll.)

(五) 二重結合を有する不飽和脂肪酸

に γ を附加せる結晶体を元素分析せるに $O = 28.50\%$, $H = 3.96\%$, $Br = 63.3\%$ を得その分子量 758 を得たり、此の不飽和脂肪酸の分子式並に二重結合の數如何、但し $C = 19$, $H = 10$, $Br = 80.4$ として計算すべし

牧野 春雄

拜啓次第に暖くなつて参りましたが、御變りには御座居ません。其の後致しと仰り無沙汰許りなにか。ならぬと思ひつゝ一度御便り過ぎれば失禮を重ねて居ます。私事御蔭下に愉快に仕事を致して居りますか。乍他事御心下下さい。蠶絲業界の況の聲も耳にタコが出来た位聞かれます。困ります。一向はつきり天候と事情が違ひます。殊に朝鮮で内地に比し農業を感じて居る。然し一般に蠶糸は副業として居る。一方内地の打撃はありやせん。相當苦しい。昨秋經營困難となり今では三井物産の賃挽をやつて居る様です。この外二、三兎や角の噂もある。あります。すか、内地の製絲工場は三月は全休められ、朝鮮の依頼もありました。工場自身操業を繼續して居ます。將來朝鮮でも相當數になりましう。一ぱいする事が出来ず困る事が起りやしないかと思つて居ます。内地と一緒にさる便利なる補償法などは朝鮮に適用于されず一寸困りました。

昨年未の釜數は機械製絲のみ大体七千釜です。一万釜になるのも左程遠くないでせう。

製絲の試験所も豫算緊縮にてなか／＼實現しません。然し七年度は何んとかを作りたうです。最少三十釜位のものを在京同窓生諸氏の近況をお知らせ致します。

農學校の小笠原さんは相變らず元氣以前の方もなく盛んです。然しすでに堀さんとは昨夏坊ちゃんが生れて以來奥さんがはつきりせられず最近までは中耳炎のかかはつて大分弱つて居る。身は元氣です。内藤君は昨年末京城にて良いお嫁さんを得られ目下最も樂しい時期らしいです。尾見さんは昨夏姫ちゃんを亡くされお力を落されて居ましたがこの頃元氣恢復。麻雀は元氣で仕事を上げて居ます。由井目下第二號催青中です。

創作

Y 理學博士と支那酒の壺

確水 茂

偶然、年の暮に知友のO氏が支那から歸つて來たことを聞いて、Y理學博士はO氏の不意打ち的行動に

ささか參らせられた。いつもなら、一ヶ月位前には必ずO氏からの通信

によつてその歸國を知るのだつたが、今度ばかりはそれらしい通信に一度

も接してゐなかつたので、尤もそれは、後で、O氏の令兄が危篤であつ

たためだと聞かされたのだ、O氏の歸省の理由は直ちに明かになつた。

然しO氏が東京のS氏の家へ泊つて博士の新家庭を見舞はなかつたといふことに對しては、博士には少し物

足らぬ感がないでもなかつた。尤も博士が十二月の十日頃に結婚して、

急に小田急沿線へ居を移したので、O氏がそれを知らなかつたために來

なかつたのだ、といふことを考へた時にはその不満を打ち消すことが出

來た。博士は間もなくS氏から支那酒一壺を受け取つた。それはO氏がはる

ばる支那から持ち歸つたのだとこのとであつた。博士はその支那酒を受

け取つてからといふものは、O氏の再び東京へ出て來る日が待ち遠く

ならなかつた。博士はO氏のおいて行つた支那酒の壺を見た瞬間から、非常にその壺

が好きになつて了つた。ガラスの瓶や樽などへ詰められてゐるビールや

日本酒の殺風景な姿にあきあきしてゐた博士が、支那風の壺——それに

は支那風の繪が描かれてゐる——を

をその支那酒の壺へ投げかけるのが常であつた。

O氏が兄を失ひ、葬式を済まして東京へ出て來たのは一月の末であつ

た。O氏は直ぐその足で、小田急沿線の博士の新家庭を訪問した。二人

の間にはいろいろの物語が交されたが、そのうちに、例の支那酒の處分

問題へ話題が轉ぜられた。「ああ、丁度いよ。東京の連中に御馳走することにしようか」と突然

O氏が提案した。「うん、さうだな、それがよからう」と博士は無條件で合意した。又

實際O氏としては、久しく逢はなかつた東京の連中と支那酒をかこんで

話すことは嬉しいことに相違なかつた又博士にとつては、その席上で令夫人を紹介することは一層好都合で

あると思はれた。日比谷の帝國ホテルの近くに山水

樓といふ有名な支那料理屋がある。O氏は支那にゐる間に、知人から山

水樓を紹介されてゐたので、日本へ歸つたら是非一度は立ち寄つて見た

と思つてゐた。然るに博士と支那酒の處分問題を議してゐる間に、山

水樓のことがふいに頭の中へ蘇つて來たので、O氏は山水樓へ行つては

どうかと博士に話してみた。すると博士は直ちにそれに同意した。

次の日の夕方、博士は小田急沿線の家から例の壺を持ち出し、新宿驛で下車して、タクシーを呼んで山水

樓へ向つた。博士が山水樓へついた時には既にO氏並びに三人程の連中

が集つてゐた。博士は持つて行つた支那酒を下女に命じて蓋を取らせる

ことにした。何故かといふと、壺の蓋は紐で叩いて缺き取らねばならなかつたから。

ことになつた。暫くして女中が井の中へ酒を移して來たのを見ると、女中の豫言した通り濁つてゐて飲むことが出来なかつた。止むなくその酒は持つて歸るといふことにして、それと同種類の酒で宴會を始めた。宴會は全くO氏の獨り舞臺であつた。總て支那風に行はれ、O氏の説明つきで支那料理が數人のものによつて味はれて行つた。

宴會が終ると同時に博士は女中に命じて、支那酒の壺——書齋を飾るための——を持つて來させた。女中は持つて來るが早い。

「誠に申わけございません。實はコックが蓋を取りましたときに、あやまつて傷を入れて了ひまして」と詫言

た。それを聞くと博士の心は益々おだやかでなくなつて來た。あれほど期待してゐた支那酒の壺に負傷を負はせたといふことは許し難いことであつた。むつとした博士は

「けしからんね。コックは日本人かね。それとも支那人かね。支那人ならそんなばかなまねをしやしない」と女中に問ふた。

「あの、コックは全部支那人でございます」と女中は丁寧な返事をした。

「あんまりつかりした壺がけるなんて随分亂暴なことをしたものだ」とO氏がつけ加へた。

「無茶だね」と博士は言ひ放つた。「誠に申わけありません」と女中は幾度も頭を下げた。

その後博士は山水樓を思ひ出すと厭でたまらない。いまだに山水樓を思ひ出すまいとつとめてゐる。

(一九三三・三・二夜丸の内)

彙報

第十八回卒業式に於ける田中文
務大臣の祝辭及針塚校長の式辭

卒業諸子諸子ハ今回業ヲ本校ニ卒ヘ斬新ナル知識ト濃烈
タル意氣トヲ以テ本邦蠶業界ニ其ノ歩ヲ進メントス國家
ノ爲洵ニ慶賀ニ堪ヘサル所ニシテ世ノ諸子ニ期待スル所
モ誠ニ大ナルモノアリ諸子庶幾クハ其ノ使命ノ重キヲ自
覺シ常ニ心身ノ修養ヲ怠ラス益々學術ヲ究メ業ヲ勵ミ以
テ大ニ國富ノ増進國力ノ發展ニ寄與スル所アラントヲ
一言以テ祝辭トス

昭和六年三月十五日

文部大臣 田 中 隆 三

式 辭

本日第十八回卒業證書授與式ヲ舉グルニ當リテ文部大臣閣下ヨリ
御祝辭ヲ賜ハリ朝野多敷貴賓各位ノ御光臨ヲ辱ウシタルコトハ洵
ニ本校ノ光榮トシテ深ク感謝スルコトコロデアリマス
卒業生諸子、諸子ハ當校入學前既ニ中等學校ニ於テ修メタル基礎
知識ノ準備ヲ以テ更ニ當校ニ於テ所定ノ專門教育ヲ受ケ學科ニ實
習ニ實驗ニ三箇年間不斷努力ヲ積ミ克ク學生ノ本分ヲ守リシ結果
本日ノ榮譽ヲ擔フニ至リタルモノデス誠ニ欣喜ニ堪ヘナイ次第デ
アリマス
抑モ蠶製絲紡績ノ事業ハ我國國家經濟上ニ最モ重要ナルコトハ諸
子ノ充分ニ熟知セルトコロデアリ今更ニ要シマセン
諸子ヨリ諸子ハ出デ、直チニ此等重要ナル生産業ニ從事スルモノデ
アルガ故ニ大ナル責任ト擔キ自信トヲ以テ其ノ全力ヲ傾注シテ奮
勵セバナリマセン
而シテ非常時ニハ亦非常ノ決心ヲ要スルコトハ勿論デアリマス此
ノ決心ナキ者ハ社會ノ落伍者トナルコトハ自業自得トシテ覺悟セ
ネバナラヌコトハ當然デアリマス
今ヤ我國ハ經濟的ニモ思想的ニモ國交上ニモ頗ル多事多難ノ時デ
アリマスカラ並大抵ノ考ヤ働キ方デハ此ノ難局ヲ打開スルコトハ
思ヒモヨラスコトデアリマスソコデ余ノ諸子ニ深ク希望スルコト
ロガアリマス則チ
一、普通人ニ倍スル仕事ヲナスコト

第十八回卒業式

母校第十八回卒業證書授與式は去る
三月十五日午前十時半より講堂に於
て舉行、針塚校長の證書授與及式辭
田中文務大臣祝辭(代讀)成澤上田市
長、伊藤上田市會議長、倉澤通平(實
業家代表)、芝原下伊那農學校長(中
等學校代表)、武市北信毎日新聞社
長(新聞記者代表)、菅原勇治同窓生
代表)等の諸氏の祝辭卒業生總代小
林忠十郎氏の謝辭ありて十一時半閉
式。
因みに卒業生の氏名は左の通りであ
る。

養蠶科卒業業者

(ABC順)

淺川 武男 長野 千村 敏三 岐阜
古川 正喜 長野 市川 龍雄 長野
市村 志眞 長野 一之瀬 貞嗣 長野
笠原 四郎 長野 河淵 益美 愛媛
河野 芳春 宮崎 河田 榮一 長野
宮坂 收 長野 百瀬 哲一 長野
村田 一由 長野 中澤 喜雄 長野

製絲科卒業業者

赤松 與一 栃木 馬場 武長 長野
千葉 達人 長野 馬場 豐長 長野
深澤 潔 長野 飯嶋 喜藏 群馬
早出 良人 長野 笠原 義人 長野
井野 正夫 京都 越 英信 長野
桐原 達郎 長野 宮城 忠夫 静岡
松井 憲二 静岡 中會 根三 長野
成尾 喜八郎 熊本 根津 健 長野
西尾 重郎 奈良 野田 太郎 大分
小口 勝三 長野 大平 正三 長野
酒井 淳夫 新潟 須永 茂 群馬
鈴木 玄九 愛知 田口 喜一郎 長野
高松 珍夫 群馬 土田 六衛 新潟
八木 喬 新潟 山田 保士 岡山
吉賀 哲雄 山口

絹絲紡績科卒業業者

- 一、普通人以上ノ勝タル健康ヲ保持スルコト
- 一、表裏ナキ活動ヲナスコト
- 一、進ンデ汗ノ体験ヲ積ムコト
- 一、最も信頼セラ、ルニ足ル人格ノ持主タルヤウ常ニ修養ヲ怠
ラザルコト
- 一、常ニ研究的態度ヲ以テ進ミ創作性ノ發揮ニ努ムルコト
- 諸子ノ實社會ヘノ發程ニ際シテ特ニ此ノ數語ヲ呈シテ饒ト致シマ
ス諸子ハ宜シク自重自愛シテ各其ノ適スルところニ從テ最善ノ努
力ヲ致シ以テ國家ガ諸子ヲ養成シタル本旨ニ副ハレシコトヲ切望
シテ止マヌノデアリマス
茲ニ一言ヲ陳ベテ式辭ニ代ヘル次第デアリマス

昭和六年三月十五日

上田蠶絲專門學校長 針塚長太郎

新入會員歡迎

懇談會

三月十日、卒業試験の終了した日
本年新たに卒業する八十一名の新
入會員のため校內武道場において歡
迎懇談會が催された、本會各部の主
任理事より會の組織や會員への希望
を述べ新入會員より會への希望や
謝辭があり種々の打合せ懇談を行つ
た、いつもこの會に出席されて經驗
やら廣告やらをユーモアたつぷりに
話してゆかれる生絲の國社の猪坂君
が見えなかつたのは淋しかつたが小
宮山製絲場の高木君が特に製絲へ行
く諸君にと一場の話をされたのは
一般社會に出る誰にも必要な尊い經
験であつた、終りに倉澤理事の閉
會の辭に兼ねて會員の經營する雜誌
製絲、機械、紡績用品等の廣告よろ
しくあつたのも頼もしい話であるし
會員名簿を求めて新會員が動靜部へ
役到了したのも誠に頼もしいことであ
る。

製絲選科修業者

養蠶選科修業者

星野 進 愛知 細井 滿 東京
小林 忠十郎 長野 松崎 武雄 宮崎
中村 治三郎 長野 西村 盈保 兵庫
佐久間 幸一 佐賀 瀬脇 休信 鹿兒
東地 宏 富山 和田 貞政 長野
柳澤 信義 長野 横瀬 政之助 茨城
永井 眞吉 長野
荒木 慎藏 長野 林 謹一 長野
原井 國男 熊本 鈴木 保男 山梨
關 幸作 長野 張 復昇 民國
絹絲紡績選科修業者
武井 一郎 長野

入學試驗合格者

母校本年度入學志願者は去る三月十五日を以つて其受付を締切つた所志願者數無試験二十八名、試験四百七十六名合計五百四名にして此中無試験入學合格者は前號所報の如くであるが試験入學の分は去る三月廿五日試験施行の結果四月一日左記九十二名入學許可された。

入學許可者氏名（順序不同）

高藤佐大後坂倉塚中	山石手西池箱市	中前山	秋平今小	前	余	十	牧
野澤藤野野野野野	澤田山瀨	嶋	山岡井林	嶋	語	河	嶋
賢東孝洋芳恒正恒	武六俊良	利三郎	俊英芳輝	正	伊三郎	慶	章
造豐次治六文夫優	壽喜喜	治郎	雄司美夫	直	郎	士	吾
新岡群廣大熊長兵滋	長山長長長長	岐	長兵長長長	愛	香	長	野
濁山馬嶋分本野庫賀	野野野野野	阜	野庫野野野	知	川	野	

製

內藤正一	河越哲男	金佐洛禎	入佐一郎	多田作造	齋藤利雄	康明玉	百瀨正	阿蘇谷正治
愛知	長野	朝鮮	鹿兒嶋	長野	山形	朝鮮	長野	鹿兒嶋

以上三十六名

絲科

中會根誠一	清水常雄	橫澤武雄	新野剛夫	森山德博	香山治	西田好文	副田好雄	市原三郎	太田三郎	大久保直雄	林英雄	長岡利方	熊谷俊三	小川正之	犬丸英二	松野輝彥	田口清一	征矢克郎	三宅農富榮	藤吉雄二	深井重一	原正二	牛草榮喜	松浦彰義	田岡實	竹花其	林正平
群馬	長野	長野	新潟	山本	熊庫	福岡	長岡	岡山	佐賀	香川	大分	長崎	岐卓	長崎	長崎	長崎	岡山	福岡	長崎	長崎	佐賀	岡山	和歌山	長野	長野		

絹絲紡績科

橫	池	乙	流	土	益	大	金
田	田	丸	郷	屋	淵	岩	丸
豐	爲	義	檜	安	誠		
以上三十六名	彦雄	雄	三	治	正	巖	功
	長	長	岡	長	鹿	靜	新
	野	野	山	野	兒	岡	渴
		本			嶋		

紀念品に就いて

(昭和五年度、及六年度卒業の會員に報告)

會員が學校卒業の際に紀念品を寄贈してゆくことは美しい慣例で、創立當時には樹木が少なかつたので苗木を寄贈したが今ではそれらが雲つくやうな大きな樹になつてゐる、昨年度の紀念品については紀念品代として學校當局でお預りして置いたが

針塚校長轉宅

針塚校長は此程御都合により市内新
参町へ轉宅された。

齋藤技師の榮轉

長野縣蠶業試驗場上田支場勤務地方
農林技師齋藤菊雄氏は今回蠶業取締
所上田支所長に榮轉した。

辭令

公立實業學校教諭 田附 卯一郎
 陞シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル
 月二十八日
 公立實業學校教諭 細 川 護
 陞シテ高等官六等ヲ以テ待遇セラル
 月二十八日

住所の移動

吉池 只 蠶十三
小縣郡鹽川村三〇三

故曾我龍五郎氏弔
慰金決算報告

圓笠原重雄 森

金壹圓	笠原重龜	森西康允
若井弘	小口兼雄	
稻田實	左右田武	
土屋勳	太谷正治	
坂路喜一	大谷内三衛	
山口定次郎	櫻井卓三	
梅澤治三郎	和田智	
金貳圓	萩原清治	窪田潤
合計金	貳拾圓也	
遺族贈呈料金	貳拾圓也	
昭和六年三月三十一日		

故川島甲一氏弔慰
金決算報告

金決算報告

金壹圓	石川 健丸	前田 龜雄
日野 光平	山本 岩三郎	
橋本 武光		
齋藤 翔雄	鹽原 克巳	
小林 道廣		
合計 金	拾壹圓也	
遺族贈呈料金	拾壹圓也	
昭和六年三月一日		

故小松義夫氏弔慰
金決算報告

金 決 算 報 告

昭 和 六 年 三 月 一 日	上田蠶絲專門學校同窓會	金壹圓	三好彌市	宮入誠一
		金貳圓	小富山太助	三浦重雄
			手塚雄一	渡邊 亘
			萩野俊一	細川 護
			大野久藏	藤崎 鎮
			大塚重藏	堀 忠太郎
			河井 正	栗原 章
			關口三郎	福島鋼次郎
			二木 猪一	池田忠治郎
			宮田鐵五郎	鈴木 敬吾
			齋藤菊雄	
		金參圓	高橋康輔	
		合 計 金	參拾圓也	
		遺族贈呈料金	參拾壹圓也	